

タムセルク(6,608m)、カンテガ(6,685m)2峰が大きく東に聳える。ここはエベレスト街道中間地点標高3,880mシャンボチエの丘に建つホテルエベレストビュー。東方向奥にエベレスト(8,848m)、ローチェ(8,515m)、左手前にヌブチエ(7,861m)が見える筈だが、雲に隠れている。カトマンズからルクラ(2,840m)へ飛行機を乗り継ぎ、トレッキング開始2日目でドゥドゥコシの谷へ一旦600m下り、谷沿いに7つの大きな吊橋を渡りながら1,600m登り返したことになる。このシャンボチエの丘から北へ30mほど下ったクムジュン村はシェルパの里で、エベレスト初登頂のヒラリー卿の造った学校や病院などのほか、イエティ(雪男)の頭部を奉った僧院などがあり、静かな佇まいを見せている。

ホテル・エベレストビューは40年前、信州上田青木村出身の宮原巍(ミヤハラカミ)氏(昭和9年生れ、日大山岳部OB、第4次南極観測隊、1962年ヒマヤ登山隊、1965年グリーンランド遠征隊長)が8,848万円(エベレストの標高に合わせ)の資本金をもとに建てた石積み基礎、地下1階、地上2階建て、トタン板瓦葺き屋根、延3,776㎡(富士山の標高に合わせ)、世界で最も高所にあるホテルであるが、今回のトレッキングはこのホテルの劣化調査下見を兼ねたもので、今後、ネパールの国立公園の大自然と共生できるよう環境に配慮した改修を図り、地元シェルパの人たちに維持管理と運営を移管し、観光産業の核となるよう企画を進める目的もあった。およそ5時間の下見調査で、給排水衛生設備の大幅な更新と屋根および木製外装材・サッシの更新が最優先と思われた。

改修資材運搬は、宮原氏がホテル建設と同時に造ったピラタス機用シャンボチエ飛行場と、ホテル横(といっても100mほど離れている)ヘリポートが整っており、改修計画案は満40年を迎える来年10月までにまとめる予定である。

トレッキング3日目はモンラ峠(3,973m)～ポルチェタンガ(3,675m)と5時間のアップダウンの行程。宿泊地ポルチェタンガでは4000mまでの高度馴化往復。4日目はドーレ(3,740m)～ラ・バルマ(4,330m)の6時間の行程。同地で4,500mまでの高度馴化。5日目は、マツェルモ(4,410m)までほぼ平坦な4時間の行程。行く手正面に白く輝くチョ・オユー(8,201m)を見て思わず歓声。カメラシャッターを切る。マツェ

ルモでも4,800mまでの高度馴化往復で6日目以降のゴーキョ(4,750m)、ゴジュンパ氷河(4,800m)に備え、幻の花ブルーポピーを岩陰に見つけカメラに収めるなど大いにこの時を楽しんだが、その夜半、呼吸困難に陥り2時間の酸素吸入。睡眠時は肺呼吸が主となり肺内気圧が下がって、心臓への酸素供給が少なくなるため血中酸素濃度も下がる。結局夜明けまで一睡もできずゴーキョ行きを断念。サブガイドのニマ君と往路を戻ることとなり、高度差400mのマツェルモに下ると高山病がウソのように消え、その晩は熟睡できた。雨季の7月は湿度が高いため高山病にかかりにくいといわれていたが、好天に恵まれすぎたせいであろうか、或いは調子に乗って高度馴化を1日省いたせいであろうか、私にとって4,800mが高度障害の限界で残念な結果となってしまった。

翌7日目、クムジュン村クンデ病院(3,880m)での診察結果は胃酸過多症で、2種類の胃薬をもらっただけであった。丸2日間のクムジュン村でのリハビリは、クンデピーク(4,200m)に上り、アイランドピーク(6,160m)、ダウラ・ギリ(8,453m)など360度の展望を楽しんだ。

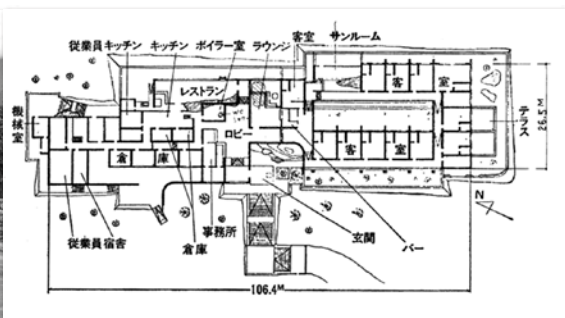
10日目は、ゴーキョピーク(5,360m)で高度障害を来し戻ってきた二人の先行メンバーとホテル・エベレストビューで合流。

翌朝、昨夜来の雨も上がり、北から東へ順にチェラツェ、タウチエ、ヌブチエ、エベレスト、ローチェ、アイランドピーク、アマダムラム、カンテガ、タムセルクの峰々のシルエットが徐々に朝霞に溶け込み、西を見れば、コングデ、テンギラギダウなど6,000m級の山々が朝日を浴び、白い頂と赤茶色のヒマラヤ髯を際立たせている。

我々は夜明けの5時から3時間あまり、シャッターを切るのに夢中であつた。

今回12日間のトレッキングは雨季にも拘わらず天候に恵まれ、素晴らしい高山の花々を観ることができ、旅の終わりでは2日間の予備日をカトマンズ盆地の旧市街地を寺院建築や世界遺産のダルバール旧王宮広場の散策で楽しむことができた。

最終日の夜は、同行の山下泰子文京学院名誉教授が理事長を務める認定NPO法人日本ネパール女性教育協会(JNFEA)のために、カトマンズのホテル・サンセットビューの邦人女主人が主催した晩餐会に、ネパール教育庁次官を招き、西部山間部地域の今後の女性教育の在り方、女子教員の育成とその赴任先の保証制度改革などのほか、海外援助に頼らぬ学校建設政策についても有意義な話題に加わることもでき、充実した20日間であった。

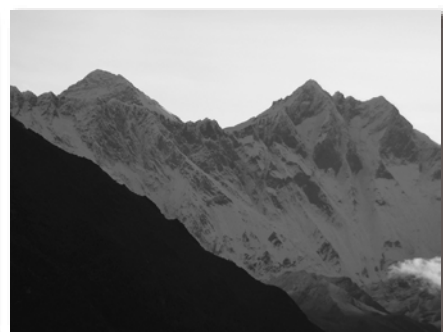


ホテルエベレストビュー、東側テラスと平面図

マツェルモ 高度4,800m地点のブルーポピー。丈は30cm程度。水分を摂取するための細かな繊毛が特徴的。



マツェルモへの登り道・チョ・オユー(8,201m)を望む



夜明けのエベレスト(8848m)とローチェ(8515m)